

## 伊勢市人権尊重都市宣言

すべて国民は、日本国憲法のもと、基本的人権が保障され自由で平等な社会の実現を願っています。

しかしながら、現実の社会生活においては、今なお人権が侵害される事象が見受けられます。

今こそ、市民一人ひとりが人権尊重の精神に徹し、より豊かな人権感覚を身につけることが大切です。

よって私たちは、自らの人権意識を高め、すべての人々の人権が守られる心豊かで明るく住みよい地域社会を築くため、ここに「人権尊重都市」を宣言します。

平成18年7月11日 伊 勢 市



伊勢市人権政策課

伊勢市岩淵1丁目7-29  
TEL 0596-21-5546  
2016.3.28 発行

みんなの

# 人権 ハンドブック



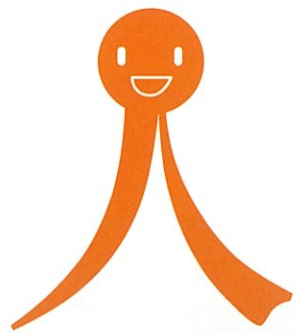
No.17

## 平和と人権

～戦争のない平和な世界を～



伊勢市・伊勢市教育委員会・伊勢市人権施策推進協議会



# 平和と人権

## ～戦争のない平和な世界を～

恒久的な世界平和は、すべての人々の願いであると思います。

しかし、世界各地では依然として戦争が勃発しており、毎日のように尊い人命が奪われ、幸せな日常が破壊されています。平和に反する戦争は、人権に対する重大な脅威であり、許しがたい行為です。



### 【戦争がもたらすもの】

戦争は「最大の人権侵害」といわれます。

戦争の本質は、極めて原始的・暴力的な紛争の解決手段です。ひとたび戦争が起これば、当事国や周辺国の社会や経済のあらゆる部分に打撃を与えます。突然暴力に巻き込まれ、国の利益やイデオロギーを優先するために人権がないがしろにされ、命や財産などすべてが根こそぎ奪いつくされてしまいます。

たとえ直接戦争に関わっていなかったとしても、世界全体に大きな影響を与えます。国交が断絶し輸出入がストップすると、産業の多くが機能不全に陥ります。また、当事国や周辺国に家族・身内がいる人は、安否が確認できるまで大きな不安を抱えることとなります。戦争は決して「国」と「国」だけの問題ではないのです。

そして、戦争に巻き込まれると、「被害者」になるだけでなく、「加害者」になってしまうことも考えられます。過去二度にわたる世界大戦についても、戦争を仕掛けた国や応戦した国だけが悪いということだけでなく、「全人類共通の罪」として心に留め置かなければなりません。



### 【世界の状況】

世界では、未だに戦火に見舞われている地域が多数存在します。

争いの多くは、民族同士が抱える問題や経済的な動機が理由となっていますが、宗教や思想信条といった観念的な事象に起因する場合も少なくありません。いずれにしてもそれらの争いの根っこの部分は、当事者でないものが想像するよりもずっと深いものです。国や地域ごとに言葉が違うように、物事に対する考え方や受け止め方にも大きな違いがあります。それぞれがお互いの正義に従って行動しているため、違う考えを持った相手との間に、摩擦や衝突が生じてしまうのは仕方のないことかもしれません。

しかし、どれほど崇高な思想を掲げていても、武力で物事を解決する手段を採ってしまえば、それはただの「暴力行為」です。いかなる理由があったとしても、いたずらに人命を損なわせるような行為は、絶対に正当化されてはなりません。

平和的な終結を迎えるためには、世界のすべての人々がお互いに認め合い、譲り合う精神を抱く必要があります。それが「相互理解」という、人権の根本的な考え方につながっていくのです。



### 【日本の役割】

わが国はしばしば、「敗戦国であり唯一の被爆国」と表現されることがあります。

先の世界大戦において、戦地であるいは国内への攻撃で多くの命が奪われた上に、現在も後遺症などで心身ともに苦しんでいる方々がおられます。

戦後70年を迎え、戦争体験を鮮明に記憶している世代は、もう80代前後となっています。戦争の悲惨さを風化させないためにも、記録を残し、教訓として語り継いでいくことが急務とされています。

ただ、過去を顧みる場合、戦争当時の感情のままにまかせるばかりでなく、70年を経た今の時代にふさわしい考え方のもとで、活動を展開することが必要です。

これから先の未来のこと—将来にわたって二度と戦争を起こさないよう、恒久平和を全世界に向けて発信していくことこそが、敗戦国であり被爆国である日本にしかできない役割であると考えます。